



はじめに Replication

NetApp
June 07, 2022

目次

はじめに	1
レプリケーションサービスについて説明します	1
データレプリケーションを設定	2

はじめに

レプリケーションサービスについて説明します

NetApp SnapMirror は、LAN または WAN 経由でデータを高速でレプリケートするため、仮想環境と従来の環境の両方で、高いデータ可用性と高速なデータレプリケーションを実現できます。ネットアップストレージシステムにデータをレプリケートし、セカンダリデータを継続的に更新することで、データを最新の状態に保ちながら、必要なときにいつでもデータを利用できるようになります。外部レプリケーションサーバは必要ありません。

の機能

- ONTAP ストレージシステム間でデータをレプリケートして、クラウドまたはクラウド間でバックアップとディザスタリカバリをサポートします。
- 高い可用性を備えた信頼性の高い DR 環境を実現します。
- ONTAP ストレージ間の効率的なブロックレベルのレプリケーションは高速かつ効率的で、DR とバックアップの両方をきめ細かくリカバリできます。

コスト

ネットアップでは、レプリケーションサービスの使用料は発生しませんが、データの入力と出力に該当する料金がクラウドプロバイダにあるかどうかを確認する必要があります。

サポートされている作業環境

Cloud Manager では、次のタイプの作業環境間でデータレプリケーションを実行できます。

ソースの作業環境	サポートされるターゲットの作業環境
Cloud Volumes ONTAP	<ul style="list-style-type: none">• ONTAP 対応の Amazon FSX• Cloud Volumes ONTAP• オンプレミスの ONTAP クラスタ
オンプレミスの ONTAP クラスタ	<ul style="list-style-type: none">• ONTAP 対応の Amazon FSX• Cloud Volumes ONTAP• オンプレミスの ONTAP クラスタ

データレプリケーションの仕組み

Cloud Manager では、SnapMirror テクノロジと SnapVault テクノロジを使用して、別々の ONTAP システムにあるボリューム間のデータレプリケーションを簡易化できます。ソースボリュームとデスティネーションボリュームを特定し、レプリケーションポリシーとスケジュールを選択するだけで済みます。

Cloud Volumes ONTAP の場合、Cloud Manager は必要なディスクを購入して関係を設定し、レプリケーションポリシーを適用してから、ボリューム間のベースライン転送を開始します。



ベースライン転送には、ソースデータのフルコピーが含まれます。その後の転送には、ソースデータの差分コピーが含まれます。

サポートされるデータ保護構成

Cloud Manager は、シンプルなファンアウト / カスケードデータ保護構成をサポートしています。

- シンプルな構成では、ボリューム A からボリューム B へのレプリケーションが行われます
- ファンアウト構成では、ボリューム A から複数のデスティネーションへのレプリケーションが行われます。
- カスケード構成では、レプリケーションはボリューム A からボリューム B、およびボリューム B からボリューム C に行われます

データレプリケーションを設定

ONTAP 作業環境間でデータをレプリケートするには、データ転送用の 1 回限りのデータレプリケーションを選択するか、ディザスタリカバリまたは長期保管用の繰り返しスケジュールを選択します。たとえば、ディザスタリカバリ用にオンプレミスの ONTAP システムから Cloud Volumes ONTAP へのデータレプリケーションを設定できます。

データレプリケーションの要件

データをレプリケートするには、Cloud Volumes ONTAP、オンプレミス ONTAP クラスタ、Amazon FSX for ONTAP に関して特定の要件を満たしていることを確認する必要があります。

作業環境

まだ作成していない場合は、データレプリケーション関係のソースとターゲットの作業環境を作成する必要があります。

- ["ONTAP 作業環境用の Amazon FSX を作成します"](#)
- ["AWS で Cloud Volumes ONTAP を起動します"](#)
- ["Azure で Cloud Volumes ONTAP を起動します"](#)
- ["GCP で Cloud Volumes ONTAP を起動します"](#)
- ["既存の Cloud Volumes ONTAP システムを追加"](#)
- ["ONTAP クラスタを検出"](#)

バージョン要件

データを複製する前に、ソースボリュームとデスティネーションボリュームで互換性のある ONTAP バージョンが実行されていることを確認する必要があります。

["SnapMirror 関係に対して互換性のある ONTAP バージョンを表示します"](#)

Cloud Volumes ONTAP 固有の要件

- インスタンスのセキュリティグループに、必要なインバウンドおよびアウトバウンドのルールが含まれている必要があります。具体的には、ICMP とポート 11104 および 11105 のルールが必要です。

これらのルールは、事前定義されたセキュリティグループに含まれています。

- 異なるサブネットにある 2 つの Cloud Volumes ONTAP システム間でデータをレプリケートするには、サブネットを一緒にルーティングする必要があります（これがデフォルト設定です）。
- 異なるクラウドプロバイダにある 2 つの Cloud Volumes ONTAP システム間でデータをレプリケートするには、仮想ネットワーク間に VPN 接続が必要です。

ONTAP クラスタ固有の要件

- アクティブな SnapMirror ライセンスがインストールされている必要があります。
- クラスタがオンプレミスにある場合は、企業ネットワークから AWS、Azure、または GCP 内の仮想ネットワークへの接続が必要です。これは通常、VPN 接続です。
- ONTAP クラスタは、サブネット、ポート、ファイアウォール、およびクラスタの追加要件を満たしている必要があります。

"[クラスタピアリングの前提条件については、ONTAP のドキュメントを参照してください](#)"

Amazon FSX for ONTAP に固有の要件

- Amazon FSX for ONTAP 作業環境は、データレプリケーション関係のターゲットである必要があります。

ソースは、Cloud Volumes ONTAP またはオンプレミスの ONTAP クラスタです。

- Cloud Volumes ONTAP が送信元である場合は、VPC ピアリングを有効にするか、トランジットゲートウェイを使用して VPC 間の接続を確認します。
- オンプレミスの ONTAP クラスタがソースの場合は、Direct Connect または VPN 接続を使用して、オンプレミスネットワークと AWS VPC 間の接続を確認します。

システム間でデータをレプリケート

データをレプリケートするには、クラウドとの間でデータを移動するのに便利な 1 回限りのデータレプリケーション、またはディザスタリカバリや長期保管に便利な繰り返しスケジュールを選択します。

手順

1. キャンバスページで、ソースボリュームを含む作業環境を選択し、ボリュームを複製する作業環境にドラッグします。



2. * Source and Destination Peering Setup * : このページが表示された場合は、クラスタピア関係用のすべてのクラスタ間 LIF を選択します。

クラスタ間ネットワークは、クラスタピアどうしが *pair-wise full-mesh connectivity* を持つように設定する必要があります。具体的には、クラスタピア関係にある各クラスタペアの、すべてのインタークラスタ LIF の間に接続が確立されている必要があります。

これらのページは、複数の LIF を持つ ONTAP クラスタがソースまたはデスティネーションである場合に表示されます。

3. * ソースボリュームの選択 * : レプリケートするボリュームを選択します。
4. * デスティネーションのディスクタイプと階層化 * : ターゲットが Cloud Volumes ONTAP システムの場合は、デスティネーションディスクタイプを選択し、データの階層化を有効にするかどうかを選択します。
5. * デスティネーションボリューム名 * : デスティネーションボリューム名を指定し、デスティネーションアグリゲートを選択します。

デスティネーションが ONTAP クラスタの場合は、デスティネーション Storage VM も指定する必要があります。

6. * 最大転送速度 * : データを転送できる最大速度（1 秒あたりのメガバイト数）を指定します。

転送速度は制限する必要があります。無制限のレートは、他のアプリケーションのパフォーマンスに悪影響

響を及ぼし、インターネットのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

7. * レプリケーションポリシー * : デフォルトポリシーを選択するか、* 追加ポリシー * をクリックして、いずれかの詳細ポリシーを選択します。

ヘルプを表示するには、["レプリケーションポリシーについて説明します"](#)。

カスタムバックアップ（SnapVault）ポリシーを選択した場合は、ポリシーに関連付けられたラベルがソースボリューム上の Snapshot コピーのラベルと一致する必要があります。を参照してください。["バックアップポリシーの仕組みを説明します"](#)。

8. * スケジュール * : 1 回限りのコピーまたは定期的なスケジュールを選択します。

いくつかのデフォルトスケジュールを使用できます。別のスケジュールを使用する場合は、System Manager を使用して、_destination_cluster に新しいスケジュールを作成する必要があります。

9. * 復習 * : 選択内容を確認して、* 移動 * をクリックします。

Cloud Manager がデータレプリケーションプロセスを開始します。ボリューム関係の詳細はレプリケーションサービスで確認できます。

著作権情報

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. 米国で印刷されていますこのドキュメントは著作権によって保護されています。画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体などの機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。テープ媒体、または電子検索システムへの保管-著作権所有者の書面による事前承諾なし。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、いかなる場合でも、間接的、偶発的、特別、懲罰的、またはまたは結果的損害（代替品または代替サービスの調達、使用の損失、データ、利益、またはこれらに限定されないものを含みますが、これらに限定されません。）ただし、契約、厳格責任、または本ソフトウェアの使用に起因する不法行為（過失やその他を含む）のいずれであっても、かかる損害の可能性について知らされていた場合でも、責任の理論に基づいて発生します。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、またはその他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1 つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許により特許、その他の国の特許、および出願中の特許。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7103（1988 年 10 月）および FAR 52-227-19（1987 年 6 月）の Rights in Technical Data and Computer Software（技術データおよびコンピュータソフトウェアに関する諸権利）条項の（c）（1）（ii）項、に規定された制限が適用されます。

商標情報

NetApp、NetAppのロゴ、に記載されているマーク <http://www.netapp.com/TM> は、NetApp、Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。